

キャリバンと魔女

資本主義に抗する女性の身体

シルヴィア・フェデリーチ著

小田原琳、後藤あゆみ訳

へなげ、五〇〇年にわたる資本の支配を経た三千年紀のはじまりに、これほど膨大な労働者たちがいまだに貧民、魔女、アウトローと定義されているのだろうか？ 資本主義の搾取の歴史を「魔女狩り」を軸に描き出す。著者はフェミニズム運動の中心的活動家として、マルクスの本源的蓄積やフーコーの身体論を批判的に検証。ここでは16〜17世紀の魔女狩りから植民地支配、そして今日のグローバル資本主義の席捲まで、フェミニストの視点から書き換える。魔女狩りを資本主義の暴力的本質に関わる問題に据えることで、抑圧と分断に対する抵抗史として解読、資本主義に対抗する実践的指針を示す。



B6判 / 517頁 / 4600円
以文社